

## Ⅶ. タテチョウ遺跡(85)の花粉分析

大西 郁夫・渡辺 正巳

### 1. はじめに

タテチョウ遺跡は松江市西川津町の朝酌川中流域の水田下に広がる縄文・弥生時代の土器などの遺物を含む低湿地遺跡であり、道路計画や河川改修計画にともなう発掘調査がなされてきた（島根県教育委員会，1979）。大西（1979）はすでに、この遺跡の第2・第3調査区の発掘現場において試料を採取し、花粉分析を行い、その結果から、花粉組成にもとづく時代区分を提唱した。この時代区分は、その後に行われた、完新世末期の花粉分帯の基礎となった。

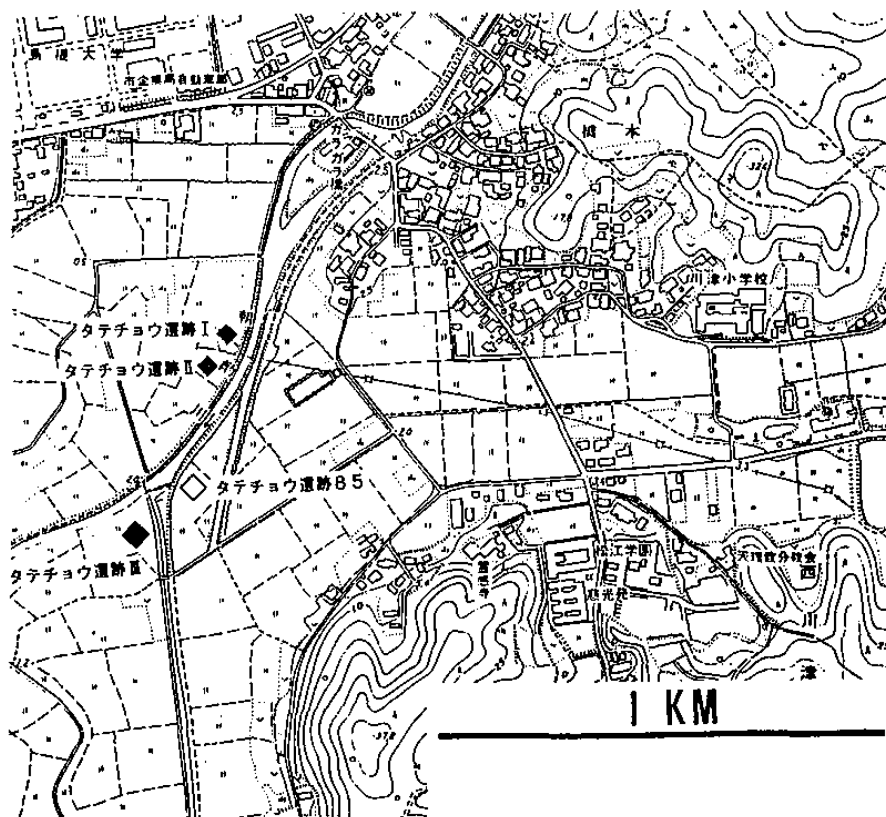
今回は、この遺跡のなかで最も下流にあたるタテチョウ遺跡第1調査区における花粉分析結果を報告する。

なお、試料採取にあたっては、島根県教育委員会の各位には様々の便宜をはかっていただいた。心から感謝します。

### 2. 分析結果と花粉組成に基づく区分

朝酌川東岸の発掘現場から採取した8試料を花粉分析した。試料番号1の上位には礫まじり砂層があり、その中には縄文式土器・弥生式土器・土師器・須恵器などの土器と石器・木器などが多量に含まれていた（島根県教育委員会，1979）。

分析の結果、木本花粉25種類、草本花粉9種類を同定した。そのうち主要な木本花粉について第2図に、その他は第1表に示した。



第1図 タテチョウ遺跡の地点図

木本花粉では、カシ類が多く、ほとんどの試料で15%をこえる。層準によっては、スギ属、二葉マツ類。イヌマキ属、ニレ属-ケヤキ属などがかなり多くなる。各花粉種属の消長によって下位より次の5区分に分けられる。

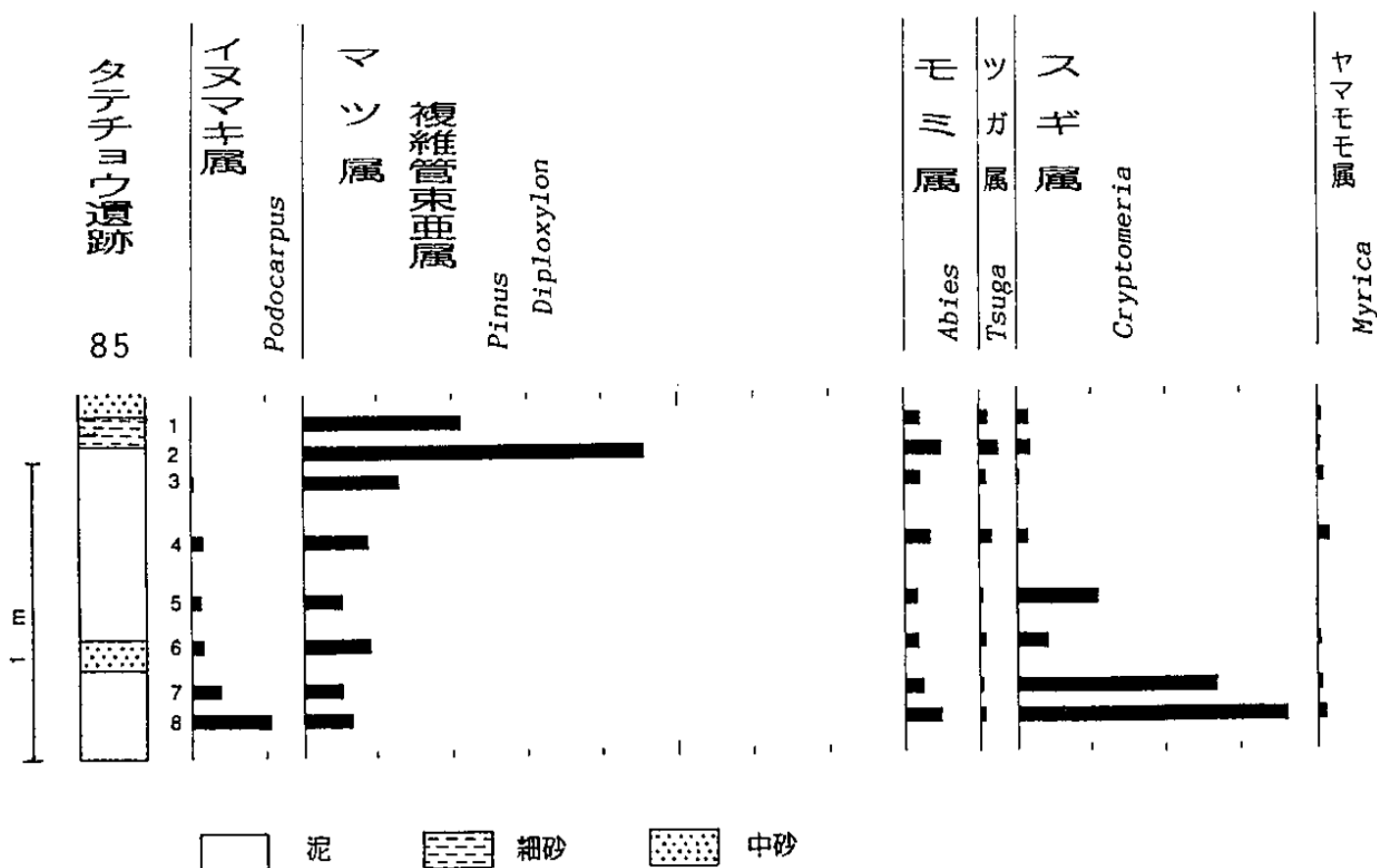
区分A (試料番号8・7) スギ属が多く (25~35%) , ニレ属-ケヤキ属カシ類, クマシデ類, イヌマキ属を伴う。

区分B (試料番号6・5) カシ属が多く (45%以上) , ナラ類, スギ属, シイ類を伴う。

区分C (試料番号4・3) カシ類は, 下位に比べてやや減少するけれども, まだ多く (25~35%) , 二葉マツ類, ニレ属-ケヤキ属などを伴う。

区分D (試料番号2) 二葉マツ類が多くなり (45%以上) , カシ類は10%以下に減少する。二葉マツ類だけでなく, ニレ属-ケヤキ属, ブナ属, モミ属, ツガ属, スギ属なども, 下位に比べて増加する。また, カシ類のほか, クリーシイ類, ムクノキ属-エノキ属も下位に比べて減少する。常緑広葉樹やムクノキ属-エノキ属が減少し, 冷温帯林や中間温帯林要素が増加することから一時的な気温低下が想定される。

区分E (試料番号1) カシ類や二葉マツ類が多く, ニレ属-ケヤキ属, クマシデ属などを伴う。



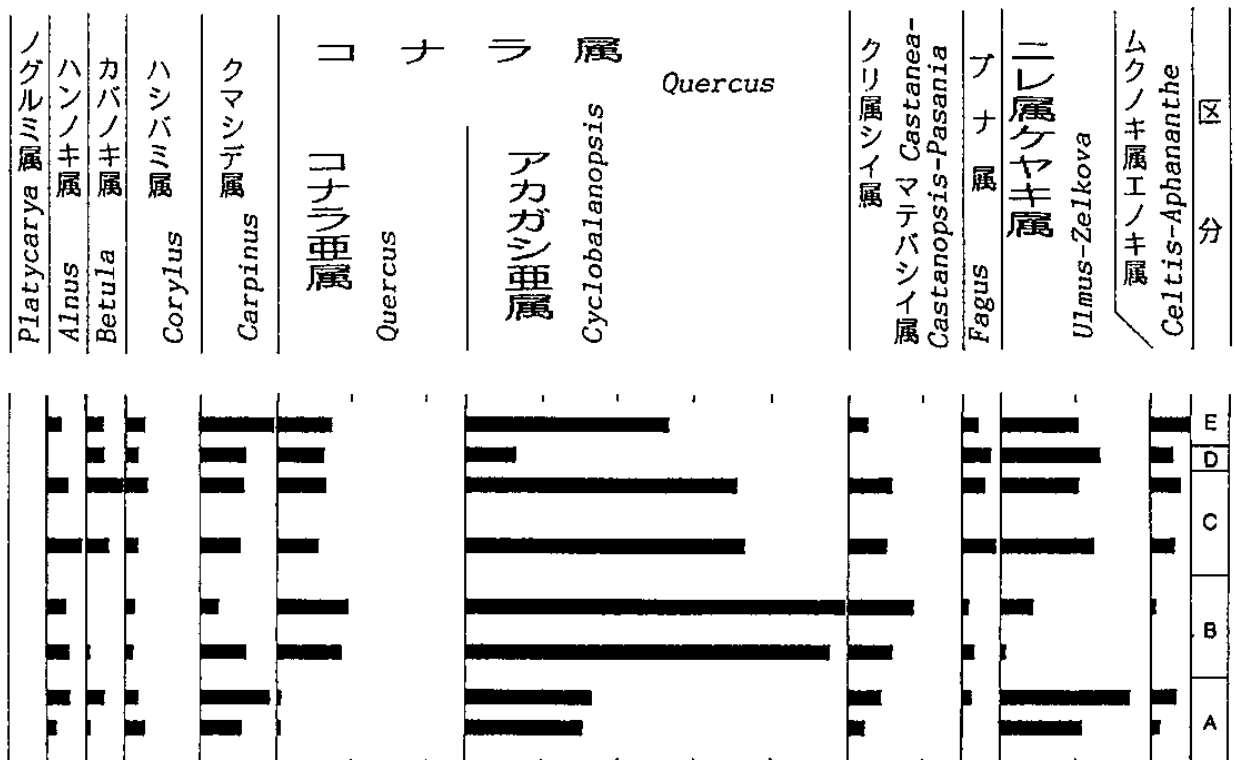
第2図 タテチヨウ遺跡 (85)

### 3. 考 察

大西 (1979) は、本遺跡の第2調査区 (タテチョウ遺跡Ⅱ) および第3調査区 (タテチョウ遺跡Ⅰ) の花粉分析結果に基づいて、完新世末期を、古いほうから、①イヌマキーモミ時代、②スギーシイ時代、③シーイネ科時代および④マツイネ科時代に分けるという時代区分を提唱した。この時代区分はその後の中海・宍道湖とその周辺地域のコアや遺跡の研究により、①に対応するカシ・シイ帯、②~④に対応するイネ科帯に分帯され、イネ科帯はさらに、②に対応するスギ亜帯、③と④の前半に対応する典型亜帯、④の後半に対応するマツ亜帯と、それよりも新期のマツ・スギ亜帯に分けられ、それぞれの亜帯の始まりは、弥生時代前期の初頭、古墳時代の中頃、A.D.1500年頃、A.D.1900年以降と推定されている (大西, 1985, 大西・渡辺, 1986)。

今回の花粉ダイアグラムからみて、区分Aはスギ属が優勢なことからスギ亜帯に、区分B~Eは一般的にカシ類やクリーシイ類が優勢であることから典型亜帯に対応するものと考えられる。

これまで、タテチョウ遺跡の「基本的な堆積土層は、上位より厚さ0.5mの粘土層、砂層、粘質土層、砂礫層と連なり、以下ヤマトシジミの死貝を含む砂混粘土層が灰色の最下層の無遺物層へと続く。このうち遺物を含むのは粘質土層の下に堆積する砂礫層で・・・」あるとされている (島根県



の花粉ダイアグラム



第1表 タテチョウ遺跡 (85) の花粉孢子類

試料番号	1	2	3	4	5	6	7	8
トウヒ属			0.3			0.3		
クルミ属-サワグルミ属	0.9	0.3			0.3	0.5		
ヤナギ属	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3		
バラ科	0.3	0.3						
ツタ属			1.2	0.3				
シナノキ属	0.3	0.3				0.8	0.3	
アオキ属		0.3						
ツツジ科	0.3							
モクセイ科		0.3						
タデ属								
サナエタデ節-								
ウナギツカミ節	0.3	0.6	0.3	0.5	1.3	0.5	0.6	0.5
ナデシコ科	0.6	0.3	0.9	0.5		0.3		0.5
セリ科	0.6			0.8	0.6	0.3	1.0	0.5
キク科								
キク亜科	0.9	0.3		0.3				
ヨモギ属	10.8	2.5	4.9	3.5	2.6	2.5	0.6	2.7
イネ科	35.6	17.4	23.1	15.5	10.0	6.8	3.9	6.1
ガマ属				0.3				
カナツリグサ科	2.7	1.6	0.9	0.3	1.6	0.5	1.6	
木本花粉	57.1	73.3	63.5	61.0	66.2	83.0	39.4	29.0
草本花粉	29.4	16.6	18.8	13.3	10.7	9.1	3.1	3.0
孢子	13.5	10.1	17.7	25.7	23.1	7.9	57.5	68.0